

N-171

岐阜県の地域風土に関するイメージ分析

岐阜県土木部 正会員 ○片桐雅之
 岐阜大学工学部 正会員 秋山孝正
 (株)ユニオン 林 達也

1. はじめに

これまで地域計画は、社会基盤施設の整備を中心に行われてきた。また近年では、従来の方法に加えて地域の風土性を考慮した地域計画が必要とされている。都市の文化・歴史に根ざす個性的なまちづくりを進めるには、「アイデンティティ」の確立が必要である。また地域の魅力的、個性的なイメージは地域アイデンティティ形成の一要因となりうる。

これらのことから、本研究では地域の精神的風土に関する地域イメージの分析をおこなう。具体的には岐阜県を対象地域として、深層心理的な意識調査を行う。この調査結果から、各地域に対する意識の相違を抽出するとともに、地域の精神風土から見た各地域の特徴を考察する。また分析結果を整理することによって、地域のあり方について検討する。

2. 意識調査を用いた地域イメージについて

イメージとは何らかの知覚像的なものを意味し、対象が現存しなくても感じとられる（ないし経験される）一種の認知事象である¹⁾。本研究では、イメージを言葉と同様に、さまざまなコミュニケーションの媒体として用いられる色彩に対応づける。一般に色彩は人間の気分の動き、思考、判断が多少とも感情的色彩を帯びているとされている²⁾。

2.1 意識調査の概要

本研究の意識調査の対象地域は、岐阜県の31市郡である。このとき各郡はいくつかの町村で構成されている。そこでイメージを想起しやすいように、平均的な人口をもつ特定の町村をこの郡の代表地域として取り上げた。これらの各地域の名称と位置を図-1に示す。

また意識調査の項目は、各地域の「認知度」、「通過程度」、「訪問程度」（それぞれ4段階評価）、各地域を「代表する固有名詞」、地域に対応する「色彩（16色）」、さらに形容詞対（15対）を用いた地域のSD（Semantic Differential）評価である。調査対象者は岐

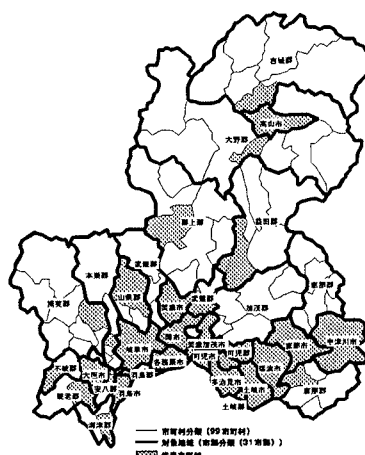


図-1 対象地域（31市郡）

阜大学関連施設勤務者、および岐阜大学学生の計45名（男性23名、女性22名）であり、調査用紙を配布、後日回収する方法とした。

2.2 意識調査の基礎的集計結果

まず各地域に付された「色彩イメージ」を地域ごとに集計した。集計結果を表-1に示す。

全体的に、緑・茶が主要な色彩イメージとして表され、山林や川、雪といった気候や自然環境がその地域

表-1 色彩イメージ集計結果（上位2位）

地域	色彩	色彩
1 吉城郡	緑 (24.4%)	灰 (17.8%)
2 高山市	茶 (20.0%)	白 (15.6%)
3 大野郡	緑 (31.1%)	茶 (13.3%)
4 益田郡	茶・黄・緑 (15.6%)	
5 中津川市	青 (22.2%)	茶・黄緑・水色 (11.1%)
6 恵那市	緑 (22.2%)	黄赤 (20.0%)
7 恵那郡	緑 (17.8%)	茶・黄緑 (13.3%)
8 瑞浪市	水色 (42.2%)	青 (13.3%)
9 土岐市	茶 (26.7%)	黄赤 (13.3%)
10 土岐郡	茶 (28.9%)	白 (20.0%)
11 多治見市	黄赤 (17.8%)	茶 (15.6%)
12 可児郡	緑 (17.8%)	茶・黄・黄赤・青緑 (11.1%)
13 可児市	赤 (22.2%)	ピンク (11.1%)
14 美濃加茂市	黄緑 (20.0%)	緑 (15.6%)
15 加茂郡	緑 (22.2%)	茶 (15.6%)
16 郡上郡	白 (26.7%)	緑 (13.3%)
17 武儀郡	灰 (17.8%)	黄赤・緑 (15.6%)
18 美濃市	緑 (15.6%)	黄赤・白 (13.3%)
19 関市	灰 (24.4%)	青緑 (13.3%)
20 各務原市	灰 (17.8%)	青 (13.3%)
21 岐阜市	灰・水色 (13.3%)	
22 山県郡	緑 (37.8%)	茶 (11.1%)
23 本巣郡	黄赤 (28.9%)	緑 (15.6%)
24 羽鳥市	灰 (15.6%)	黄緑・緑 (13.3%)
25 羽鳥郡	水色 (20.0%)	青 (15.6%)
26 海津市	青 (26.7%)	水色 (13.3%)
27 安八郡	青 (17.8%)	黄・黄緑 (13.3%)
28 大垣市	青 (15.6%)	茶・水色 (11.1%)
29 黄老郡	緑 (33.3%)	水色 (15.6%)
30 不破郡	白 (15.6%)	茶・黄緑・緑 (11.1%)
31 岐阜郡	緑 (26.7%)	茶 (13.3%)

をイメージしやすい要素であることがわかった。またその土地の名産品や行事もイメージに表れやすい要素の一つであることがわかった。また都市部に関して、灰の色彩イメージが強いという集計結果が得られた。

さらに各地域の形容詞対による評価結果から平均プロフィール曲線を描いた。その結果を図-2に示す。

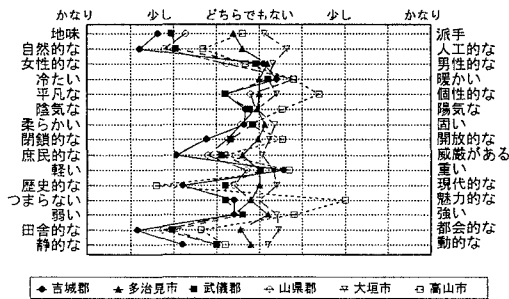


図-2 平均プロフィール曲線

ここで、郡部では「自然的な」「田舎的な」などの形容詞が表されている。多治見市・大垣市などは、特徴的な形容詞が少ない地域である。さらに平地に比べて山岳地にいくほど「暖かい」というイメージが強く、精神的な意味でのこころのやさしさを感じられる。

3. 地域イメージ形成についての分析

3.1 色彩イメージによるクラスター分析

つぎに、地域イメージの形成過程を各地域イメージ相互の階層的構造により表現する。つまり上記で得られた地域ごとの「色彩構成比」（回答数ベクトル）により複合的な色彩イメージを表現していると考えられる。

このイメージに対する色彩構成データに基づいて、地域イメージ分類を行うため「クラスター分析」を実行した。この結果をデンドログラムとして示したものが図-3である。

この結果から色彩イメージを7つに分類することができた。これらの色彩分類として①灰色地域、②白色地域、③黄赤色地域、④緑色地域、⑤青色地域、⑥黄緑色地域、⑦水色地域と表現できる。

3.2 言語イメージによる因子分析

つぎに、SD評価尺度の評定によって得たデータに対して、因子分析（バリマックス回転）を行った。因子分析は多数の測定項目からなるデータの次元を縮小する方法であり、10個の形容詞対を集約した主要な因

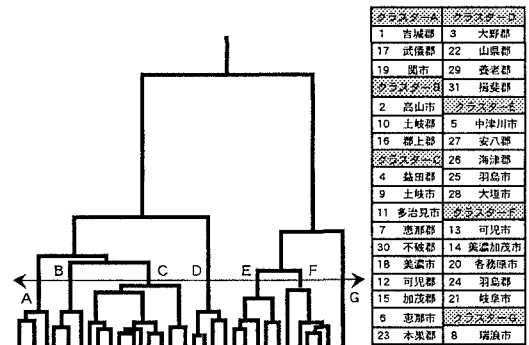


図-3 クラスター分析結果

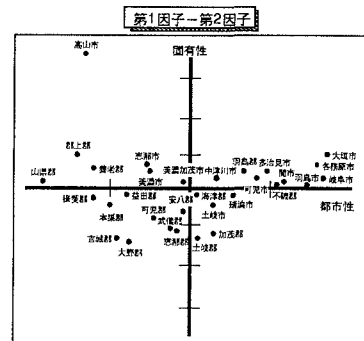


図-4 因子得点散布図

子で表現しようとするものである。これより「都市性」「固有性」、「内向性」の3因子を抽出した。この因子得点による分布図を図-4に示す。

ここで「都市性」の因子得点の高い地域は岐阜市を中心とした周辺の市部、低い地域は郡部となっている。また「固有性」の因子からは、高山市が他の地域より非常に個性が強いことが分かる。一方で、高山市以外は特徴に乏しい地域であるとも考えることもできる。

4. おわりに

本研究では、意識調査結果から各地域の特徴を求め、地域のイメージ評価内容を示した。また現象面と想起されるイメージとの関係を調べることで、今後の風土特性を考慮した地域計画において有効な計画手法の端緒が示されたものと考えられる。

今後の検討課題として、現実的な地域計画との関連性や具体的手法についての検討が必要である。

参考文献

- 1) 水島恵一・上杉喬：イメージ心理学1・イメージの基礎心理学,1983.
- 2) 日本色彩学会：新編色彩科学ハンドブック，東京大学出版会，pp.408～411，1991.